

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

発刊日: 31/07/2020
バージョン: 1.0

セクション 1: 化学品及び会社情報

ラベルに使用される製品の識別子

製品名

Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

他の識別手段

5168 (400 mL)

化学品の推奨用途と使用上の制限

推奨用途

溶剤

使用上の制限

知られていない。

安全性データシート供給者の詳細

供給者の詳細

LIQUI MOLY GmbH

納入業者の住所

Jerg-Wieland-Str. 4

89081 Ulm-Lehr

ドイツ

電話

(+49) 0731-1420-0

F a x

(+49) 0731-1420-88

E メール(担当者)

info@liqui-moly.de

緊急電話番号

緊急連絡用電話の番号

+49 (0) 6132 / 84463

24 時間

セクション 2: 危険性物質の特定

危険有害性の概要

製品の取り扱い:

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。 黄色 液体。. 高圧容器: 熱すると破裂のおそれ。 眼刺激。 呼吸器への刺激のおそれ。 眠気又はめまいのおそれ。 発がんのおそれの疑い。 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。 次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 目の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。

吸入した場合: 呼吸が困難な場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

飲みこんだ場合: 通常の使用条件のもとでは、危険は予期されません。 加圧容器が製品を液体の流れ/粗いミストで分注する場合、当製品は口の中に溜まることがあります。 口をすすぐこと。 症状が現れたり、大量に摂取した場合は医師の診断を受けてください。 医療関係者の指示がない限りは嘔吐させないでください。 気分が悪いときは医師に連絡すること。

物質または混合物の分類

以下に準拠: JIS Z 7252: 2019

物理的な危険性

Aerosol Category 1 H222; H229

健康に対する有害性

Eye Irrit. 2; H319

STOT SE 3; H335

STOT SE 3; H336

Carc. 2; H351

Repr. 2; H361

STOT RE 1; H372

Aquatic Acute. 2; H401

環境に対する危険

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

発刊日: 31/07/2020

バージョン: 1.0

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

Aquatic Chronic. 2; H411

表示要素

危険性を表す絵表示



注意喚起語

輸入

危険有害性情報

H222: 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。

H229: 高圧容器: 熱すると破裂のおそれ。

H319: 強い眼刺激。

H335: 呼吸器への刺激のおそれ。

H336: 眠気又はめまいのおそれ。

H351: 発がんのおそれの疑い。

H361: 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。

H372: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き

安全対策

P201: 使用前に取扱説明書を入手すること。

P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

P210: 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。

P211: 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。

P251: 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

P264: 取り扱いの後手と暴露された皮膚を徹底的に洗う。

P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

P260: ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

P271: 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

P273: 環境への放出を避けること。

応答

P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337+P313: 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P312: 気分が悪いときは医師に連絡すること。

P308+P311: ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

P410+P412: 日光から遮断し、50 °C以上の温度にばく露しないこと。

P405: 施錠して保管すること。

P501: 内容物を国、都道府県、市町村の法規に従って廃棄する。

保管

廃棄

他の危険有害性

空気により爆発性混合物を形成することがあります。

セクション 3: 組成/成分の情報

化学物質 - 該当なし。

混合物

GHS の分類 JIS Z 7252: 2019

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

発刊日: : 31/07/2020

バージョン: 1.0

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

物質の化学的特定名	%W/W	CAS 番号	EC 番号	化審法 官報公示番号^	危険有害性分類
アセトン	60 - 70	67-64-1	200-662-2	2-542	Flam. Liq. 2; H225 Eye Irrit. 2B; H320 STOT SE 3; H335 STOT SE 3; H336 Repr. 2; H361 STOT RE 1; H372
Hydrocarbons, C10, aromatics, < 1% naphthalene	30 - 40	-	918-811-1	-	Flam. Liq. 4; H227 Asp. Tox. 1; H304 STOT SE 3; H336 Aquatic Chronic 2; H411
Hydrocarbons, C10, aromatics, >1% naphthalene	< 2	-	919-284-0	-	Flam. Liq. 4; H227 Asp. Tox. 1; H304 STOT SE 3; H336 Carc. 2; H351 Aquatic Chronic. 2; H411
ナフタレン	< 1	91-20-3	202-049-5	4-311	Acute Tox. 4; H302 Skin Sens. 1; H317 Eye Irrit. 2B; H320 Carc. 2; H351 STOT SE 1; H370 STOT RE 1; H372 Aquatic Acute. 1; H400 Aquatic Chronic. 1; H410
Phenol, dodecyl-, branched	< 0.25	121158-58-5	310-154-3	3-511	Skin Corr. 1C; H314 Eye Dam. 1; H318 Repr. 1B; H360F Aquatic Acute. 1; H400 M 因子: 10 Aquatic Chronic. 1; H410 M 因子: 10

H/P フレーズのテキスト全部分については、セクション 1.6 を参照する。 ^ 化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律 (MITI 番号)

当製品の分類に影響を与えるであろう他の成分または不純物はありません

セクション 4: 応急処置



応急処置の説明

吸入

吸入した場合: 呼吸が困難な場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い場合は、中毒センターに連絡する。

皮膚接触

皮膚（または髪）に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐ/取り去ること。 多量の水で洗うこと。 刺激（発赤、発疹、水疱）があらわれた場合、医師の手当てを受けること。

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

発刊日。: 31/07/2020

バージョン: 1.0

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

目の接触

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。

摂取

通常の使用条件のもとでは、危険は予期されていません。加圧容器が製品を液体の流れ/粗いミストで分注する場合、当製品は口の中に溜まることがあります。

飲みこんだ場合: 口をすぐのこと。症状が現れたり、大量に摂取した場合は医師の診断を受けてください。医療関係者の指示がない限りは嘔吐させないでください。気分が悪いときは医師に連絡すること。

眼刺激。呼吸器への刺激のおそれ。眠気又はめまいのおそれ。発がんのおそれの疑い。生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

製品は口の中に溜まることができます - 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

症状によって処置する。

最も重要な症状および作用（急性および遅発性）

加圧容器が製品を液体の流れ/粗いミストで分注する場合

医師の手当と特別な処置が直ちに必要な状態

医師への注意:

暴露後 48 時間ぐらい経ってから症状が現われることがある。

飲みこんだ場合: 嘔吐させないでください。もし嘔吐する場合は、被災者を前屈みにさせて吸引のリスクを減らしてください。

吸入した場合: 可能であれば酸素吸入を施し、必要があれば人工呼吸を施す。

セクション 5: 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

周辺の火災に適切な。水噴霧、泡、粉末または炭酸ガス。.

不適切な消火剤

ウォータージェットを使用しない。直接水を噴射すると火炎が広がることがあります。

当該物質または混合物に起因する特別な危険性

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。高圧容器: 熱すると破裂のおそれ。知られていない。蒸気は空気より重く、着火源および逆火源までかなりの距離を移動することができます。危険有害性分解生成物: 一酸化炭素、二酸化炭素。

その地域から待避する。消防作業員は自給式呼吸器を含む完全な保護服を着用すること。化学防護服。容器は火災によって破裂があるので、もし安全なら、火災現場から移動させる。火災の場合、容器に水を噴霧して冷却する。消防活動による流出物を下水溝や河川を流入させないでください。環境への放出を避けること。

消防作業者の特別な保護具と予防措置

セクション 6: 漏出時の措置

人体に対する予防措置、保護具および緊急時措置

訓練を受け、適切に保護された作業者のみが、清窓=務を行わなければなりません。注意 - 流出物は滑りやすい時もある。身体に対するリスクを含めて、アクションを取るべきではない。適切な保護具を着用すること。直接的な接触を避けること。ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。全ての接触を避けること。摂取しないでください。飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。加圧容器: 日光を避け、50 度を超える温度に曝さないようにしてください。使用後も、穴を開けたり燃やしたりしてはいけません。裸火や白熱した物質にスプレーしてはいけません。可燃性・引火性。スプレーを吸引してはいけません。換気の良い場所でのみ使用してください。全ての着火源を取り除くこと。熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。喫煙禁止。使用の前に衣服を脱いで徹底的に洗濯すること。当該エリアを隔離し、蒸気が分散できるようにします。閉ざされた空間や下水等では蒸気がたまり、空気と混ざり合って爆発性混合物を生成する可能性があります。

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

発刊日。: 31/07/2020

バージョン: 1.0

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

環境的予防措置

封じ込めと清掃のための方法および資材

環境への放出を避けること。 排水路、下水道または水路に入らないようにする。

そうするのが安全であれば、漏出元を隔離する。 引火性漏洩物を回収するときには、無火花機器を使用すること。 蒸気は空気より重い; くぼみと閉鎖空間に気を付ける。 機器が適切に接地されていることを確認してください。 適切な換気を確保する。 物質が蒸発できるようにします。 残存液体を砂または不活性吸収材で吸い取り、安全な場所に取り除くこと。

セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

安全な取り扱いのための注意事項

作業員は被暴を最小限にするように訓練されていることを確認します。 適切な換気を確保する。 適切な保護具を着用すること。 直接的な接触を避けること。 ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 ~から離すこと: 昇温。 高い産業衛生水準を維持します。 取扱い後は手を完全に洗うこと。 汚染された衣服は徹底的に洗濯する。 作業場所では飲食、喫煙を行なってはならない。 直射日光を避けること。 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。 喫煙禁止。 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。 容器を接地すること/アースをとること。

安全な貯蔵のための条件 (不適合条件を含む)

他の容器に移し替えないこと。 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。 喫煙禁止。 日光から遮断し、50 °C以上の温度にばく露しないこと。 子供の手の届かないところに置くこと。 食品、飲料、動物の飼料から遠ざけること。

保管温度

日光から遮断し、50 °C以上の温度にばく露しないこと。

混触危険物質

強酸化物類。 強酸およびアルカリ。 アミン。

セクション 8: 暴露防止及び保護措置

職業暴露限度

物質	CAS 番号	OEL		参照:
		ppm	mg/m ³	
アセトン	67-64-1	200	470	JSOH

ソース: OEL - Reccomendation of Occupational Exposure Limits (2018 - 2019), J Occup Health 2018; 60: 419-452

職業暴露限界の勧告 (2018 年~2019 年) 、J Occup Health 2018 年; 60: 419-452

生物学的暴露指数

確立されていない。

適切な工学的管理

より高度なレベルの保護具が必要かどうか、作業工程と潜在的暴露の程度を考慮する。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 飲食及び喫煙前には手を洗うこと。 作業場所の近くに洗眼設備と安全シャワーを確保すること。

個人用保護具 (PPE) などの個人保護措置

高い産業衛生水準を維持します。 適切な保護具を着用すること。 直接的な接触を避けること。 ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 休憩前及び作業後には手を洗うこと。 作業着は分けて保管すること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。 作業場所では飲食、喫煙を行なってはならない。 本品使用前には皮膚保護クリームを使用すること。

保護衣は、扱う有害物質の濃度と量に応じて、作業場所専用に選択する必要があります。 保護服の化学物質に対する耐性は、それぞれの供給業者に確認する必要があります。

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

発刊日。: 31/07/2020

バージョン: 1.0

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

目/顔面の保護



適切な目の保護具を使用する。 (推奨: EN166). 洗眼ボトルを準備しておかなければなりません。

皮膚の保護



手の保護: EN374 に準拠してテストされた適切な手袋を着用する。 浸透の問題を避けるため、手袋は定期的に交換すること。(以下と同等または類似: EN374) 480 分以上の浸透時間に対応する、保護指数 6.

推奨: ブチルゴム。 (最小厚さ: 0.5mm)

体の保護: 適切な保護衣を着用する。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 化学防護服。

呼吸器の保護



適切な換気を確保する。 職業暴露限度を超過する濃度に暴露するようなら、適切な呼吸用保護具を着用する。

推奨: 高性能フィルタ(EN143)の使用が推奨される。 フィルタータイプ A1 (以下と同等または類似: EN143)

特定の条件に起因する危険性に対する特別な注意事項

予想されていない。

セクション 9: 物理的および化学的性質

基本的な物理化学的特性についての情報

外観

黄色、透明な エーロゾル。活性物質: 液体。

におい

独特な臭い

臭いの閾値

確立されていない。

pH 値

確立されていない。

融点/凝固点 (° C)

確立されていない。

初留点と沸騰範囲 (° C)

確立されていない。

引火点(°C)

確立されていない。

蒸発速度

確立されていない。

燃焼性 (固体、ガス)

確立されていない。

上限/下限可燃性または爆発限界

確立されていない。

蒸気圧(mm Hg)

確立されていない。

蒸気密度(空気=1)

非混和性。

相対密度

確立されていない。

溶解度

確立されていない。

分配係数 (n-オクタノール/水)

確立されていない。

自己発火温度 (°C)

確立されていない。

分解温度 (°C)

確立されていない。

粘度(mPa. s)

確立されていない。

追加性質

爆発性

空気により爆発性混合物を形成することがあります。

酸化性

非酸化性。

密度

0,831 g/ml (20° C)

セクション 10: 安定性及び反応性

反応性

普通の状態で安定。

化学的安定性

普通の状態で安定。 有害な重合は起こりません。

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

発刊日。: 31/07/2020

バージョン: 1.0

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

危険な反応の可能性

避けるべき条件

加熱すると圧力が高まり、破裂するので爆発の危険がある。

日光を防ぎ、50°C / 122°Fを超える温度に暴露しないこと。発火源から離して保管する。

混触危険物質

危険有害性分解生成物

強酸化物類。強酸およびアルカリ。アミン。

火災の時分解されて、有毒な煙を発生する: 一酸化炭素、二酸化炭素

セクション 11: 有害性情報

毒性に関する情報

急性毒性 - 口

混合物。: これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

急性毒性推定混合計算: LD50 > 2,000 mg/kg 体重/日。

急性毒性 - 経皮

混合物。: これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

急性毒性推定混合計算: LD50 > 2,000 mg/kg 体重/日。

急性毒性 - 吸入

混合物。: これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

急性毒性推定混合計算: LC50 > 5mg/l (霧)。

皮膚腐食性/刺激性

混合物。: これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性

アセトン Eye Irrit. 2B; H320: 眼刺激。

NITE GHS 分類

混合物。: これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

混合物。: これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

混合物。: Carc. 2; H351: 発がんのおそれの疑い。

EU ECHA 登録書類

混合物。: Repr. 2; H361: 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。

アセトン Repr. 2; H361: 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。

NITE GHS 分類

混合物。: STOT SE 3; H335: 呼吸器への刺激のおそれ。

STOT SE 3; H336: 眠気又はめまいのおそれ。

アセトン STOT SE 3; H335: 呼吸器への刺激のおそれ。

NITE GHS 分類

STOT SE 3; H336: 眠気又はめまいのおそれ。

証拠の重み付け負り: 分類のための観察 (ラット)

(Bruckner JV, Peterson RG, 1981)

STOT SE 3; H336: 眠気又はめまいのおそれ。

協調運動障害。 (ウサギ) (IARC 47, 1989)

STOT SE 3; H336: 眠気又はめまいのおそれ。

EU ECHA 登録書類

混合物。: STOT RE 1; H372: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

アセトン STOT RE 1; H372: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。

NITE GHS 分類

混合物。: これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

特定標的臓器への毒性 (単回暴露)

Hydrocarbons, C10, aromatics, >1% naphthalene

Carc. 2; H351: 発がんのおそれの疑い。

Hydrocarbons, C10, aromatics, >1% naphthalene

Repr. 2; H361: 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。

特定標的臓器への毒性 (反復暴露)

吸引性呼吸器有害性

Repr. 2; H361: 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。

その他の情報

知られていない。

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

発刊日。: 31/07/2020

バージョン: 1.0

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

セクション 12: 生態学的情報

毒性

混合物。: Aquatic Acute. 2; H401: 水生生物に毒性。

Aquatic Chronic. 2; H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

推定 LC50 (96 時間) 魚類 1 - 10 mg/l

Hydrocarbons, C10, aromatics, < 1% Aquatic Chronic 2; H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

naphthalene NOELR : 0.441 mg/l (魚類) (28 日)) (CONCAWE, 2010)

Hydrocarbons, C10, aromatics, >1% Aquatic Chronic. 2; H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

naphthalene NOELR: 0.487 mg/l (魚類) (28 日)) (CONCAWE, 2010)

ナフタレン Aquatic Acute. 1; H400 : 水生生物に非常に強い毒性。

Aquatic Chronic. 1; H410: 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

NITE GHS 分類

Phenol, dodecyl-, branched Aquatic Acute. 1; H400 : 水生生物に非常に強い毒性。

M 因子: 10. EU 調和した分類

Aquatic Chronic. 1; H410: 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

M 因子: 10. EU 調和した分類

残留性および分解性

混合物全体としてのデ^く[^]はありません。

アセトン 容易に生分解される。

90.9% 分解 以下に準拠する: 水 (28 日)) (OECD 301 B)

Hydrocarbons, C10, aromatics, < 1% 本質の生分解性

naphthalene 57.95% 分解 以下に準拠する: 水 (28 日)) (OECD 301 F)

Hydrocarbons, C10, aromatics, >1% 本質の生分解性

naphthalene 57.95% 分解 以下に準拠する: 水 (28 日)) (OECD 301 F)

ナフタレン 容易には生分解されない。

Phenol, dodecyl-, branched 容易には生分解されない。

>6% 分解 以下に準拠する: 水 (28 日)) (OECD 301 B)

生物蓄積性

混合物全体としてのデ^く[^]はありません。

アセトン この物質は生物濃縮の可能性が低い。

BCF: 3 L/Kg (Fh-ITEM, 2009)

Hydrocarbons, C10, aromatics, < 1% 利用できるデータなし

naphthalene

Hydrocarbons, C10, aromatics, >1% この物質は生物濃縮の可能性が低い。

naphthalene

ナフタレン 低い生体蓄積性

Phenol, dodecyl-, branched 生物濃縮します。

BCF: 823 (OECD 305)

土壤中の移動度

混合物全体としてのデ^く[^]はありません。

アセトン この物質は土壤中での移動性が高いと予想される。水混合性。

Hydrocarbons, C10, aromatics, < 1% 物質は複雑な

UVCB

である。

naphthalene このエンドポイントの標準テストは単一物質を対象としており、この複雑な物質には適していない

Hydrocarbons, C10, aromatics, >1% 物質は複雑な

UVCB

である。

naphthalene このエンドポイントの標準テストは単一物質を対象としており、この複雑な物質には適していない

ナフタレン この物質は土壤中での移動性が高いと予想される。

Phenol, dodecyl-, branched この物質は土壤中での移動性が低い。

Koc: 10.4 - 4.71x104 (OECD 121)

オゾンに対する有害な影響

アセトン この物質にオゾン層破壊の可能性はない。

Hydrocarbons, C10, aromatics, < 1% この物質にオゾン層破壊の可能性はない。

naphthalene

Hydrocarbons, C10, aromatics, >1% この物質にオゾン層破壊の可能性はない。

naphthalene

ナフタレン この物質にオゾン層破壊の可能性はない。

Phenol, dodecyl-, branched この物質にオゾン層破壊の可能性はない。

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

発刊日: 31/07/2020
バージョン: 1.0

その他の有害な作用

知られていない。

セクション 13: 廃棄上の注意

廃棄物処理法

この材料とその容器を有害廃棄物として処分します。排水路に流してはならない。この物質および容器は有害廃棄物もしくは特定廃棄物の収集場所に廃棄する。廃棄処分は関連法(地方政府、県、国家)に従わなければならない。本物質の容器が空の場合、製品の残留物が残っていると有害であることがあります。

セクション 14: 輸送上の注意

	ADR/RID	国際海上危険物	IATA/ICAO
国連番号	1950	1950	1950
UN 適切な船積み名	AEROSOLS, flammable	AEROSOLS, flammable	AEROSOLS, flammable
輸送危険分類	2.1	2.1	2.1
輸送危険分類	-	-	-
海洋汚染物質	環境的に有害な物質	海洋汚染物質に分類され ている。	環境的に有害な物質
使用者に対する特別な注意事項	次の項を参照: 2		
MARPOL 73/78 Annex II および IBC コードに準拠したパ ルク輸送	該当なし。		

セクション 15: 適用法令

特に当該物質または混合物に関する安全性、健康および環境についての規制/法律

労働安全衛生法 (ISHA)

通知対象物	アセトン: ≥ 0.1%
表示対象物	ナフタレン: ≥ 1%
有機溶剤。	アセトン: ≥ 1%
作業環境負担基準の管理濃度	ナフタレン: ≥ 0.1%
危険物質	アセトン
毒物及び劇物取締法	アセトン
化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律	アセトン (可燃性物質)
優先評価化学物質	該当なし。
既存化学物質	該当なし。
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR)	アセトン
消防法	ナフタレン
	アセトン
	ナフタレン
	Phenol, dodecyl-, branched
	該当なし。
	第四類引火性液体 第一石油類 危険等級 II

セクション 16: その他の情報

以下の項には改訂または新しい内容が含まれる: 該当なし。 - V1.0

参考文献:

- 既存の安全データシート (SDS).
- NITE 化学物質総合情報提供システム.
- 調和した分類 以下を対象: Phenol, dodecyl-, branched (CAS 番号 121158-58-5).

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

発刊日。: 31/07/2020

バージョン: 1.0

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

以下に対する既存の ECHA 登録: Hydrocarbons, C10, aromatics, < 1% naphthalene (EC 番号 918-811-1); Hydrocarbons, C10, aromatics, >1% naphthalene (EC 番号 919-284-0) と Phenol, dodecyl-, branched (CAS 番号 121158-58-5).

文献情報源:

- Bruckner JV, Peterson RG, 1981, Evaluation of toluene and acetone inhalant abuse. I. Pharmacology and pharmacodynamics, ToxicolAppl Pharmacol 61: 27-3.
- CONCAWE. 2010. Aquatic Toxicity Predictions Obtained Using the Petrotox Model for Hydrocarbons.
- Rice Stanley D. and Thomas Robert E. 1989. EFFECT OF PRE-TREATMENT EXPOSURES OF TOLUENE OR NAPHTHALENE ON THE TOLERANCE OF PINK SALMON (ONCORHYNCHUS GORBUSCHA) AND KELP SHRIMP (EUALLS SUCKLEYI). Comp. Biochem. Physiol., Vol 94C, No. I, pp. 289-293, 1989.
- Moles A, Rice, SD. 1983. Effects of crude oil and naphthalene on growth, caloric content, and fat content of pink salmon juveniles in seawater. Trans. Am. Fish. Soc. 112: 205-211, 1983.
- Fh-ITEM. 2009. Determination of physico-chemical properties and environmental fate using EPIWIN v3.20.
- Lindhardt Bo, Christensen Thomas H. 1994. Measured And Estimated Volatilisation Of Naphthalene From a Sandy Soil. Chemosphere, Vol. 29, No. 7, pp. 1407-1419, 1994.

この安全データシートは、日本工業規格 JIS Z 7252 : 2019 および JIS Z 7253 : 2019 に従って編集されています。

物質または混合物の分類 以下に準拠 JIS Z 7252:2019	分類手順
Aerosol. 1; H222	専門家判断
Pressurised Container 1; H229	専門家判断
Eye Irrit. 2; H319	閾値計算
STOT SE 3; H335	閾値計算
STOT SE 3; H336	閾値計算
Carc. 2; H351	閾値計算
Repr. 2; H361	閾値計算
STOT RE 1; H372	閾値計算
Aquatic Acute. 2; H401	積算
Aquatic Chronic. 2; H411	積算

注釈

ADR/RID	ADR: 陸路による危険物の国際運送に関する欧州協定 / RID: 危険物の国際鉄道輸送に関する規制
BCF	生物濃縮率 (BCF)
CAS	CAS: 化学情報検索サービス
EC	EC: 欧州共同体
EN	欧州規格
EU	欧州連合
IATA	IATA: 国際航空運送協会
ICAO/IATA	ICAO: 国際民間航空機関 / IATA: 国際航空運送協会
国際海上危険物	IMDG: 国際海上危険物
LTEL	長期暴露限界
M 因子	倍率
無影響濃度	無影響濃度
NOELR	最大無影響負荷率
OECD	経済協力開発機構
PBT	PBT: 難分解性、生物蓄積性、毒性
STEL	短時間暴露限界
UN	国連
vPvB	vPvB: 高難分解性、高生物蓄積性

危険有害性分類 / 分類コード:

Flam. Liq. 2; 引火性液体, 区分 2

危険有害性情報

H225: 引火性の高い液体及び蒸気。

安全データシート



Pro-Line Diesel Ansaug System Reiniger 400 mL

安全データシート 以下に準拠: JIS Z 7253: 2019

発刊日。: 31/07/2020

バージョン: 1.0

Flam. Liq. 4; 引火性液体, 区分 4

Acute Tox. 4; 急性毒性, 区分 4

Asp. Tox. 1; 吸引性呼吸器有害性, 区分 1

Skin Corr. 1C; 皮膚腐食性/刺激性, 区分 1C

Skin Sens. 1; 皮膚。感作性, 区分 1

Eye Irrit. 2; 目。刺激性, 区分 2

Eye Irrit. 2B; 目。刺激性, 区分 2B

STOT SE 3; 特定標的臓器への毒性 (単回暴露), 区分 3

Carc. 2; 発がん性, 区分 2

Repr. 1B; 生殖毒性, 区分 1B

生殖毒性 区分 2; 生殖毒性, 区分 2

STOT SE 1; 特定標的臓器への毒性 (単回暴露), 区分 1

STOT RE 1; 特定標的臓器への毒性 (反復暴露), 区分 1

Aquatic Acute 1; 水生環境有害性, 急性, 区分 1

Aquatic Acute 2; 水生環境有害性, 急性, 区分 2

Aquatic Chronic 1; 水生環境有害性, 慢性, 区分 1

Aquatic Chronic 2; 水生環境有害性, 慢性, 区分 2

H227: 可燃性液体。

H302: 飲み込むと有害。

H304: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

H314: 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。

H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

H319: 強い眼刺激。

H320: 眼刺激。

H335: 呼吸器への刺激のおそれ。

H336: 眠気又はめまいのおそれ。

H351: 発がんのおそれの疑い。

H360F: 生殖性に害を与えるかもしれない。

H361: 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い。

H370: 臓器の障害。

H372: 長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害。

H400: 水生生物に非常に強い毒性。

H401: 水生生物に毒性。

H410: 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

研修アドバイス : 検討事項は、より高度なレベルの予防が必要になるかどうか決定するため、作業手順で関わることや将来的な被爆の程度に影響を及ぼします。

免責事項

この出版物に含まれている情報または使用者様に提供される情報は正確であると考えられ、誠意を持ってご提供する一方で、使用者様は、各自の特定の目的に対して、製品の適合性に関する判断を自らの責任の下で行うものといたします。LIQUI MOLY GmbH は、特定の目的に対する製品の適合性について一切保証いたしません。また、黙示的な保証または条件（法定またはその他）は、法律で除外が禁止されている場合を除き、除外されます。LIQUI MOLY GmbH は、本情報への依存に起因する損失または損害について責任を負いません（欠陥のある製品によって引き起こされた死亡、または人身傷害に起因するもので、それが証明された場合は除きます）。特許、著作権、意匠に基づく自由は想定できません。